

米エヌビディアの好決算が日本株の支えに



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米エヌビディアが好決算を発表

米半導体大手エヌビディアが21日の取引時間終了後に23年11月-24年1月期の決算を発表し、売上高は前年同期比3.7倍の221億米ドルと市場予想（204億米ドル）を上回りました。同時に発表した24年2-4月期の売上高見通しも240億米ドル前後と市場予想（219億米ドル）を大きく上回る内容となったことを受け、21日の取引終了後の時間外取引で同社株は一時10%超の上昇となりました。

エヌビディアの良好な業績見通しはハイテク企業のウェイトが高い日経平均株価にとって支援材料といえます。同社株と日経平均株価は連動する傾向が強く、今回の決算で今後も生成AI需要の拡大が続く可能性の高さが示唆されたことを考えると、日経平均株価は再度最高値をトライすると考えられます（右上図）。

ポイント② テクノロジー需要増は日本株にプラス

米エヌビディアや日本のハイテク企業を取り巻く環境は長期的にみて明るいといえます。投資家の期待が高まっている生成AIの市場規模は、32年には1兆3,000億米ドル超と、23年比で20倍弱に拡大するとみられています（右下図）。また、ガソリン車と比べ3～5倍の半導体が必要とされるEVの世界販売台数は38年には23年比で約5倍にまで拡大する見通しです（同図）。今後自動車業界では自動運転の実用化も視野に入っており、自動車向けの最先端半導体の需要増も期待されている状況です。

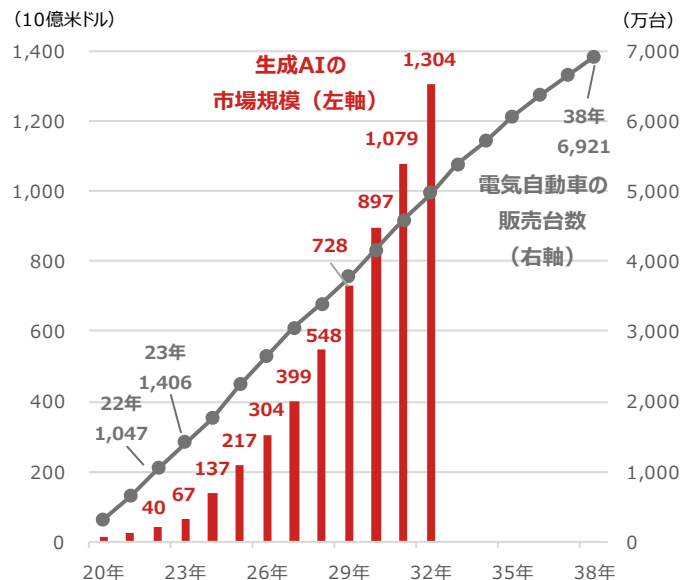
今回のエヌビディアの決算が示したように、生成AIをはじめとしたテクノロジー需要は予想以上に強いと考えられます。こうした動きは日本の関連企業にとっても追い風になるとみられ、日経平均株価はハイテク企業がけん引する形で、上昇基調が継続する可能性が高いといえそうです。

日経平均株価と米エヌビディアの株価



期間：2023年1月4日～2024年2月21日、日次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

生成AI（人工知能）の市場規模実績・予測とEV（電気自動車）の販売台数実績・予測



期間：（生成AIの市場規模）2020年～2032年、年次
（電気自動車の販売台数）2020年～2038年、年次
・市場規模・販売台数予測はBloomberg Intelligence、BloombergNEF
・生成AIの市場規模の数字は売上高ベース
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。